

## あきる台病院訪問リハビリテーションの平成22年の利用者実績報告

医療法人財団 暁 あきる台病院 リハビリテーション部

○ 佐藤 絵美 丸田 剛 細田 勝 斉藤 篤史 渡邊 秀明 奥山 徹也 荒井 哲也  
尾方 千紘 高島 耕 中村 信一 小峯 幹高 堀江 有紀 中尾 由美子 中村 嘉宏

### 【はじめに】

当院訪問リハビリテーション（以下、訪問リハビリ）のH22. 1. 1～H22.12.31までの業務実績を分析することにより、当院における訪問リハビリの現状を報告する。

### 【サービス提供体制】

当院では、医療保険による在宅患者訪問リハビリと、介護保険による訪問リハビリ（予防介護リハビリを含む）を実施している。

訪問リハビリ配置職員は、H22. 12. 31現在、常勤専従理学療法士8名、常勤専従作業療法士3名の11名である。理学・作業療法士の休暇等の代替要員として、常勤専任を2名配置している。また訪問リハビリの支援員として、社会福祉士等3名を常勤専従で配置し、営業活動、介護支援専門員との連絡調整、利用契約等の業務を実施している。

サービス提供地域は、当院所在地であるあきる野市を中心に、日の出町、福生市、羽村市、昭島市、小平市の全域と、青梅市、瑞穂町、八王子市、武蔵村山市、立川市、東大和市、檜原村の一部地域である。

### 【利用者情報】

1年間の利用契約者は251名で、男性116名、女性135名であった。全体の平均年齢は79.1歳で、男性は76.2歳、女性は81.6歳であった。男性・女性の年齢分布を確認すると、男性は65～69歳と80～84歳で二峰性を持つ分布を示している。女性は80歳代を中心に分布している。

### 【傷病名】

傷病名から分析すると、脳血管障害が82名（32.7%）、運動器疾患が81名（32.3%）、パーキンソン病が14名（5.6%）、認知症、難病、癌、心大血管疾患は各2.8～4.0%であった。男性の傷病では脳血管障害が多く52名（44.8%）、女性では運動器疾患が多く60名（44.4%）であった。

### 【要介護度】

要介護度分類は、要支援1・2が29名（11.6%）、要介護1が28名（11.2%）、要介護2が64名（25.5%）、要介護3が41名（16.3%）、要介護4が37名（14.7%）、要介護5が36名（14.3%）、医療が16名（6.3%）であった。要介護の中央値は、要介護2であった。年齢と要介護度の関係では、75歳以上と80歳以上の分布で、要介護2が要介護3へとなる転換点を示した。

### 【訪問回数】

当院では1回の訪問リハビリの利用を20分間1単位として、2単位を基本として契約している。よって、週1回2単位を中央値として、週1回2単位が141名（56.2%）、週2回4単位が95名（37.8%）、週3回6単位が15名（6.0%）であった。週1回の利用者は、要介護2が多く39名。週2回の利用者は、要介護2と要介護3で各23名であった。週3回の利用者は、要介護4が多く6名であった。要支援1・2においては週3回の利用は皆無であった。

### 【収支】

訪問リハビリの介護保険での述べ単位数は、年間33,888単位で内訳は、訪問リハ1は30,048単位、予防訪問リハ1は3,840単位であった。医療保険での訪問リハビリは2,208単位であった。

### 【まとめ】

平成22年の1年間の訪問リハビリ利用者、述べ251名の実績を分析した。年齢は男性では、二峰性の分布を認め、女性では80歳代の利用者が多く認められた。疾患においては、男性は脳血管障害が多く、女性は運動器疾患が多い結果となった。要介護度においては、要介護2の利用者が多く年齢との関係では、75歳以上と80歳以上において要介護2から3への転換点となる傾向を示した。訪問回数では、週1回2単位の利用者が約半数であった。収支においては、人件費や車輛維持費、通信費などの諸経費を考慮すると、収支バランスにおいては今後の課題を残した。